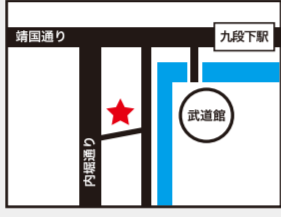


上映スケジュール / 会場

東京上映 / イタリア文化会館 定員:370名 / 先着整理券:45分前 / 開場:20分前			
9月21日(土)	16:00-	A ミッドナイト・トラベラー (87分)	 <p>イタリア文化会館 東京都千代田区九段南 2丁目1-30 地下鉄「九段下駅」 2番出口から徒歩10分</p>
9月22日(日)	12:00- 15:45- 18:30-	D 判決、ふたつの希望 (119分) C イージー・レッスン -児童婚を逃れて (78分) G ヒューマン・フロー 大地漂流 (140分)	
9月23日(月・祝)	E 僕の帰る場所 (88分)	B 難民キャンプで暮らしてみたら (75分)	E ナディアの誓い -On Her Shoulders (95分)

東京上映 / グローバルフェスタ JAPAN2019 入退場自由	
9月28日(土)	B 難民キャンプで暮らしてみたら (75分)

お台場センタープロムナード
東京都江東区青海1丁目2
「東京テレポート駅」から徒歩1分
「青海駅」から徒歩3分

東京上映 / 文京シビックホール 小ホール 定員:350名 / 先着整理券:45分前 / 開場:20分前			
10月4日(金)	13:00- 15:40- 18:40-	E ナディアの誓い -On Her Shoulders (95分) A ミッドナイト・トラベラー (87分)	 <p>文京シビックホール 東京都文京区春日1丁目16-21 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅直結 都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」直結</p>
10月5日(土)	C イージー・レッスン -児童婚を逃れて (78分) B 難民キャンプで暮らしてみたら (75分)	E ナディアの誓い -On Her Shoulders (95分)	

名古屋上映 / 名古屋国際センター 定員:180名 / 先着整理券:45分前 / 開場:20分前			
10月13日(日)	11:30- 14:30- 17:30-	E ナディアの誓い -On Her Shoulders (95分) A ミッドナイト・トラベラー (87分) E 僕の帰る場所 (88分)	 <p>名古屋国際センター別棟ホール 愛知県名古屋市中村区那古野1丁目47-1 地下鉄「国際センター」駅下車すぐ</p>
10月14日(月)	A ミッドナイト・トラベラー (87分) C イージー・レッスン -児童婚を逃れて (78分)	E ナディアの誓い -On Her Shoulders (95分)	

*トークイベント等は決まり次第、WEBサイトでお知らせします。



【主催】 JAPAN FOR UNHCR 難民を守る。難民を支える。国連UNHCR協会
 【協力・監修】 UNHCR The UN Refugee Agency
 【パートナー】 JICA 国際協力機構
 【特別協賛】 Canon 富士メガネ ユニクロ UNIQLO
 【協賛】 SONY TOYOTA JVTA 日本映像翻訳アカデミー Baccarat
 【東京上映】 【特別協力】 Istituto Italiano in CIVILTA' 【共催】 文京区 外務省 Ministry of Foreign Affairs of Japan
 【名古屋上映】 【共催】 名古屋国際センター NAGOYA INTERNATIONAL CENTER 【後援】 名古屋市 City of Nagoya (五十音順)
 【字幕制作協力】 日本映像翻訳アカデミー*
 【クリエイティブスタッフ】 滝澤慎一 (僕とYOU) / 高本新平 (NEWPEACE) / 相澤賢太郎 (POLARNO) / 清水藍那 (POLARNO) / 清水亮 / 佐藤亮太 (Slowhand Relation)

UNHCR WILL2LIVE Cinema パートナース募集

UNHCR 難民映画祭で上映する作品の上映イベントを学校が主催者となって開催する取り組み「学校パートナーズ」がスタートしたのは2015年。当初9校参加が、2018年度には32校へと拡大し、さらにその枠は企業・団体にも広がっています。今年からこの取り組みは、コンセプトと名称を進化させ、映画を通して難民問題への理解とポジティブな共感を広げる UNHCR WILL2LIVE Cinema の取り組みに賛同して下さる学校・法人パートナーを募集しています。国連 UNHCR 協会は後援として、上映作品のラインナップや広報ツール、パートナーズのロゴ提供などを通じて上映会をサポートします。

開催期間：2019年8月1日～
 お問い合わせ：WILL2LIVE 事務局
 Eメール：w2l@japanforunhcr.org
 Cinema パートナース開催協力：ユナイテッドピープル株式会社



難民を支えるためのご寄付を受け付けています。
 ゴッセン ナンシニ
 【電話】0120-540-732 (平日10時～19時) 【ウェブ】国連 難民 検索
 *お電話ではクレジットカードでのご寄付・ゆうちょ銀行振込用紙のご請求を受け付けています。*国連UNHCR協会は認定NPO法人です。ご寄付は税控除の対象となります。



UNHCR WILL2LIVE 映画祭2019



東京 / 名古屋 入場無料 2019.9.21 SAT - 10.14 MON

unhcr.refugeefilm.org
 主催：特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会
 協力・監修：国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所

難民の生き抜く意志。
 その強さを、伝えたい。



UNHCR WILL2LIVE Cinema 2019

「UNHCR WILL2LIVE映画祭2019」とは

このたび、国連 UNHCR 協会は、昨年まで 13 年間、UNHCR 駐日事務所および当協会の共催として開催された UNHCR 難民映画祭を引き継ぎ、「UNHCR WILL2LIVE映画祭2019」を開催することになりました。世界では今、紛争や迫害により 7080 万人もの人々が住みなれた故郷を追われています。UNHCR はこのような人々を決して置き去りにほしないと、世界各地で人道支援の最前線に立って日夜活動しています。その活動は、日本の皆さまのご支援によっても支えられているのです。今年の映画祭のタイトルに含まれる“WILL2LIVE”（ウィル・トゥー・ライブ）には、厳しい境遇にあっても生き抜こうとする意志（=Will to live）が示されています。難民とは逆境を生き抜く意志を持ち、困難を乗り越え逆境に立ち向かい続ける人です。変化の時代、すべての人が困難に直面しう今、彼らの生き抜く姿は、私たちに勇気を与えてくれます。映画祭では、彼らの不屈の姿が描かれた映画を上映いたします。このコンセプトおよびロゴマークの制作にあたっては、当協会の呼びかけに応じて集まってくださった有志のクリエイターの方々から多大なるご協力をいただきました。この映画祭を出発点として、さらに“WILL2LIVE”応援プロジェクトを日本の市民社会に広げていく計画が進行中です。東京で開催されるオリンピック・パラリンピックには、2016年にブラジルのリオデジャネイロ大会で歴史上初めて結成された難民選手団が、この日本にやってきます。ぜひこの映画祭に足を運んでください。一人ひとりのできることから、難民支援の輪に加わっていただければ、この日本から変化が生まれると信じています。

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会 理事長 田中 明彦
事務局長 星野 守



ロゴに込めた思い

困難な状況を生き抜く難民の、内に秘めたる熱を「心の灯火」として抽象化しました。その熱が国境や人種や立場を越えて交わることで、問題解決に向けた大きなエネルギーを生み出すことを、太陽に見立てた外形で表現しています。それぞれの難民が置かれた状況、問題の複雑性を知ってもらうきっかけとするため、記号として単純化しすぎないことを意識しています。

入場について

- ・参加無料
- ・事前申し込みなし
- ・各回上映45分前より整理券を会場で、先着順で配布します（お一人につき1枚の配布）
- ・各回20分前に開場し、整理券番号順にご案内します（自由席）
- ・各回完全入替制

ご寄付のお願い

本映画祭は毎年、様々な企業や団体からのご協賛・ご協力によって開催が実現されております。各会場において、映画祭の趣旨や当協会の活動にご賛同いただける皆様からのご寄付を募っておりますので、ご協力をお願いいたします。

UNHCR WILL2LIVE映画祭2019に関するお問い合わせ先：03-6427-7305（平日10時～18時）

上映作品



ミッドナイト・トラベラー Midnight Traveler

監督:ハッサン・ファジリ

アメリカ・カタール、カナダ、イギリス / 2019年 / 87分 / ドキュメンタリー / 日本語・英語字幕

アフガニスタンの平和をテーマにした作品がタリバンの怒りを買ひ、その首に懸賞金をかけられた映画監督のハッサンは、妻と2人の娘たちと故郷アフガニスタンを逃れることを余儀なくされる。映画監督として、時に出演者として、ハッサンは携帯電話だけを手に、タジキスタン、トルコ、ブルガリアを経て、安全な場所を求めてさまよう一家の命がけの旅を記録していく。故郷を追われて難民となるとはどのようなことか、その現実が観る者に容赦なく迫るドキュメンタリー。

2019年ベルリン国際映画祭パノラマ部門
エキュメニカル審査員賞



難民キャンプで暮らしてみたら Salam Neighbor

監督:クリス・テンブル、ザック・イングラシー

アメリカ / 2015年 / 75分 / ドキュメンタリー / 日本語・英語字幕

2人のアメリカ人青年の制作チームが、シリア難民が暮らすヨルダンのザータリ難民キャンプでの滞在を許可された。キャンプ内のテントで1カ月生活し、テントを建てたり配給に並んだりする難民の日常生活を体験。「隣人」たちとの日々の交流から見えてきたのは、トラウマを抱えながらも、自分にできることを見出し、平和を求めて懸命に生きる一人ひとりの姿だった。キャンプの外で暮らす8割の難民たちの生活についても知りたいと、近隣の町で暮らしている母子家庭も訪問。原題にある“Salam”とは、アラビア語で「平和」という意味を含むあいさつの言葉。

2016年 US Muslim Public Affairs Council より
“Media Award Honoring Voices of Courage & Conscience” 受賞



イージー・レッスン -児童婚を逃れて Easy Lessons

監督:ドロッチャ・ズルボー

ハンガリー / 2018年 / 78分 / ドキュメンタリー / 日本語・英語字幕

「娘だけは自由に生きてほしい」。そんな母親の想いを胸に、ソマリアで育った17歳のカフィアは児童婚から逃れるため、15歳のときに単身ハンガリーにたどり着いた。ハンガリー語を学びながら、高校の卒業資格をとるために日夜勉強に励むカフィア。その美貌を生かしてモデル業も始め、順調な毎日を過ごしているかのように見えたが、生まれ育った祖国で培われた宗教や文化に対する価値観とのズレに苦悩する。ソマリアにいる最愛の母親になんと伝えたらよいのだろうか・・・。ヨーロッパで自分らしい生き方を模索しながらも、自問自答する日々が続いていた。

上映スケジュール / 会場は裏面をご確認ください



判決、ふたつの希望 L'insulte

監督:ジアド・ドゥエイリ

レバノン、フランス / 2017年 / 113分 / ドラマ / 日本語字幕 / 配給:ロングライド

レバノンの首都ベイルート。その一角で住宅の補修作業を行っていたパレスチナ人の現場監督ヤーセルと、キリスト教徒のレバノン人男性トニーが、アパートのバルコニーからの水漏れをめぐって揉みこす。このときヤーセルがふと漏らした悪態はトニーの猛烈な怒りを買ひ、ヤーセルもまたトニーのタブーに触れる「ある一言」に尊厳を深く傷つけられ、ふたりの対立は法廷へ持ち込まれる。水漏れをめぐる「ささいな口論」から始まった小さな事件は、レバノン全土を震撼させる騒動へと発展していく。

第90回アカデミー賞外国語映画賞ノミネート



ナディアの誓い -On Her Shoulders

監督:アレクサンドリア・ボンパッハ

アメリカ / 2018年 / 95分 / ドキュメンタリー / 日本語字幕 / 配給:ユナイテッドピープル

2018年のノーベル平和賞の受賞者、ナディア・ムラドは過激派組織ISISによる虐殺と性奴隷から逃れた23歳のヤジディ教徒。彼女は、普通の女の子として生きたいという思いがありながらも、残された同胞のため、国連などの国際的な表舞台でヤジディ教徒が直面する現実を訴える。やがて、同胞の人々の希望の存在となっていく。彼女は当事者として国連初の人身売買の被害者らの尊厳を訴える国連観音大使に就任。2015年以来、国際刑事裁判所に人種差別罪と人道に対する罪を訴え、ISISを国際刑事裁判所に提訴するよう取り組んでいる。

2018年サンダンス映画祭監督賞、他



僕の帰る場所 Passage of Life

監督:藤元明緒

日本、ミャンマー / 2017年 / 98分 / ドラマ / 日本語・英語字幕 / 配給:EXN

東京の小さなアパートで暮らす母親のケインと幼い2人の兄弟。入国管理局に収容されている夫アイセに代わり、ケインは一人家族を支えていた。日本で育ち、母国語を話せない子どもたちに慣れない日本語で一生懸命愛情を注ぐが、父親に会えないストレスで兄弟はいつも喧嘩ばかり。ケインはこれからの生活に不安を抱き、ミャンマーに帰りたい想いを募らせる。ミャンマーでの民主化の流れや在外日本人を取り巻く社会を背景に、故郷を離れたミャンマー人家族の生活を実話を基に描く。出演者の多くは演技経験のないミャンマーの人々だが、彼らの現実がリアルに演じられている。

第30回東京国際映画祭「アジアの未来」部門作品賞、国際交流基金アジアセンター特別賞（監督賞）



ヒューマン・フロー 大地漂流 Human Flow

監督/製作:アイ・ウェイウェイ

ドイツ / 2017年 / 140分 / ドキュメンタリー / 日本語字幕 / 配給:キノフィルムズ・木下グループ

難民たちがたどり着くギリシャの海岸、四方八方の国に散るシリア難民、ガザに封鎖されるパレスチナ人、ロヒンギャの流入が止まらないバングラデシュ、ドイツの空港跡を利用した難民保護施設、アメリカとメキシコの国境地帯など、23カ国40カ所の難民キャンプを巡り、彼らの旅路をなぞってカメラに収めたのは、中国の現代美術家であり社会運動家としても活躍するアイ・ウェイウェイ。スマートフォンやドローンによる空撮を駆使し、地球を巡っていく社大で圧倒的な映像美は、ヴェネチア国際映画祭を始め各国の映画祭で高い評価を得た。

2017年ヴェネチア国際映画祭 CICT-UNESCO エンリコ・フルッコニ賞、他

ご鑑賞に際して：作品のうち、ご覧になる方によっては不快に感じられる内容が含まれている場合があります。

※これらの映画で表現される内容は、UNHCR WILL2LIVE映画祭開催に関わる協賛・協力企業、各協力会場、その他のいかなる個人・団体の意見を代表または反映しているものではありません。